

平成25年度事業報告

(平成25年4月1日から平成26年3月31日)

1 学術研究会、学術講演会の開催

(1) 第54回日本神経学会学術大会を次のとおり開催した。

- ・大会長 東京医科歯科大学大学院脳神経病態学教授 水澤 英洋
- ・会 期 平成25年5月29日から6月1日までの4日間
- ・場 所 東京国際フォーラム

(2) 学術大会運営について

① 第58回学術大会大会長を次のとおり選出した。

第58回学術大会大会長 福島県立医科大学医学部教授 宇川義一

② 学術大会の運営業務を学会事務局に移行するための準備に着手した。

(3) 地方会開催

各地方会を次のように開催した。

北海道地方会（2回）、東北地方会（2回）、関東・甲信越地方会（4回）、東海・北陸地方会（3回）、近畿地方会（2回）、中国・四国地方会（2回）、九州地方会（4回）

2 学会誌の発行

(1) 臨床神経学の発行

機関誌「臨床神経学」53巻4号～54巻3号を発行した。53巻11号および12号は電子ジャーナルである。

(2) 英文機関誌の発行

英文機関誌「Neurology and Clinical Neuroscience」2013/NO.3号から2013/NO.6号を、隔月ごとに電子ジャーナルで発行した。

(3) 診療ガイドライン作成

- ① 平成23年度から関連学会等と協力して作成作業を進めていた、CIDP/MMN、重症筋無力症、ギラン・バレー症候群/フィッシャー症候群、頭痛およびALSの5疾患についての診療ガイドラインの作成作業が終了し、出版した。デュシェンヌ型筋ジストロフィーおよび細菌性髄膜炎診療ガイドラインについては平成26年度に出版する予定である。
- ② 2009, 2010, 2011年に発行した5つのガイドラインについて、評価を行うとともに、追補版を作成し学会ホームページで公開した。

3 啓発活動

(1) 市民公開講座を次のように開催した。

第54回学術大会開催時市民公開講座

平成25年6月2日（日）東京医科歯科大学鈴木章夫記念講堂

「神経内科で診る病気」

(2) 広報活動

一般社会に神経内科を正しく知ってもらうため、学会ホームページを通じた広報活動を行った。

(3) 神経内科フォーラムの設置

国民や医療・福祉領域の方々に神経内科と神経疾患をよりよく理解してもらうため、医療関係企業や患者団体等と連携して幅広い広報活動を行う組織として神経内科フォーラムを設置した。本年度は、ホームページを開設するとともに、企業の支援を受けて神経内科を広報する新聞広告を掲載した。

また、第54回学術大会期間中に東京国際フォーラムの地上広場にて、一般の方を対象として神経内科に関する展示と説明を行うとともに、アンケート調査を実施した。

4 研究奨励

日本神経学会賞（学術研究部門）の授与者を次のとおり決定した。

勝野雅央（名古屋大学大学院医学系研究科神経内科学分野）

「運動ニューロン疾患の分子病態解明に基づく治療標的開発」

なお、日本神経学会賞の診療教育部門と榎林賞は、受賞該当者がいなかった。

5 研究推進

(1) 研究推進に関する提言のまとめ

平成25年8月に、本学会における神経疾患を克服するための研究戦略となる「神経疾患克服に向けた研究推進の提言」をまとめ、会員に配信するとともに日本脳科学関連学会連合はじめ、関連の学术界や政府関係機関に提出した。

(2) 関連団体との連携

日本脳科学関連学会連合への参加

他の関連学会と連携協力して日本脳科学関連学会連合（19学会で組織）に参加し、脳科学の発展ならびに普及に貢献した。

6 専門医及び教育施設の認定

(1) 専門医

① 第39回専門医試験を次のとおり実施した。

・第1次試験 平成25年6月15日（土）（東京大学教養学部駒場キャンパス）

・第2次試験 平成25年7月13日（土）（日本都市センター会館）

認定者数 176名

② 第19回専門医認定更新を実施した。

(2) 教育施設

① 施設認定更新

平成26年4月1日から認定する施設認定について、次のとおり認定手続き（新規及び更新）を実施した。（ ）内は、合計施設数

教育施設 (38) 准教育施設 (94) 教育関連施設 (24)

② 指導医認定

平成26年4月1日から認定する指導医認定を実施した。また、平成26年3月31日で認定期間が満了となる指導医の認定更新を実施した。

新規認定者数 134 名

認定更新者数 1,867 名

(3) 専門医制度

専門医制度の改革について、内科系関連学会と協力して制度の枠組みについて検討するとともに、神経内科領域における専門医育成のための教育・研修カリキュラムおよびプログラムについて検討を行った。また、脳神経外科学会、脳卒中学会、認知症学会、てんかん学会、頭痛学会とともに神経疾患専門診療協議会を開催し、神経疾患の診療は広汎な疾患を対象としまとめると特徴のある基本診療領域であることで合意した。

7 会員を対象とした教育及び啓発活動

(1) 生涯教育講演会

- ① 第54回学術大会開催時に第10回生涯教育セミナー（レクチャーおよびハンズオンセミナー）を開催した。
- ② Neuromuscular Conference 共催でハンズオンセミナー「神経・筋生検」を実施した。
- ③ 以下の地区で生涯教育講演会を開催した。
北海道地区、東北地区、関東・甲信越地区、東海・北陸地区、近畿地区、中国・四国地区、九州地区。

(2) 専門医育成教育事業

- ① 第54回学術大会開催時に第1回専門医育成教育セミナーを開催した。
- ② 平成25年11月2日に千葉県船橋会場で第2回専門医育成教育セミナーを開催した。

(3) 卒前・初期臨床研修教育事業

- ・各大学での大学院教育における神経内科教育の実態調査および一般病院での神経内科教育の実態調査を行った。

(4) 教育コンテンツ配信事業

第54回学術大会時に開催した生涯教育セミナー（レクチャー）、専門医育成教育セミナー

およびDVD「標準的な神経診察法」の改訂版を作成し配信した（学会ホームページ会員専用ページから閲覧できる。）。

また、臨床例など画像による教育コンテンツの制作に着手した。

(5) メディカルスタッフ教育事業

第54回学術大会開催時に、新たにメディカルスタッフを対象とした教育セミナーを行った。

(6) Excellent Teacher 表彰事業の実施

学会主催の専門医育成セミナー、生涯教育セミナーやメディカルスタッフ教育セミナー講師等として教育活動に貢献した会員19名を表彰した。

8 診療向上のための活動

(1) 診療報酬改訂への取り組み

平成26年度診療報酬改訂のための要望書を提出した。

(2) 新薬承認審査の促進等に関する要望活動

- ① ラモトリギン単剤療法（成人：てんかん、強直間代発作）の早期承認を厚生労働省に要望するなど、新薬承認審査の促進等に関する要望活動を行った。
- ② 関連学会と共同で、「自動車の運転により人を死傷させる行為等の処罰に関する法律」の改正案について、社会生活に重大な影響が懸念されることから、一定の病気の条項を削除するなどの要望を、衆議院および参議院法務委員会委員長に対して行った。

9 国際協力

① WCN2017の誘致決定

WCN2017を我が国に誘致すべく、学会挙げて、誘致活動を行った結果、平成25年9月に開催されたWFN総会で我が国での開催が決定された。

今後、準備体制の整備と準備活動を行う。

② WCN、AOCN など国際学術集會に学会員が積極的に参加するように呼びかけた。海外滞在中の会員によるネットワークを支援し連携を推進した。

10 その他の事業

① 災害支援ネットワークシステムの稼働開始等

イ) 地震等による緊急時に医療支援を行うため構築した、重症神経難病患者の受け入れ情報を共有化するためのシステムの稼働を開始し、参加機関を募集し321機関の参加が実現した。

ロ) 7月7日（日）に、仮想被災地を静岡市ならびに高知市とし、関係医療機関、行政機関等多数の協力を得て、構築した災害支援ネットワークによる災害時対応の模擬訓練を実施した。

11 一般社団法人としての運営

① 理事選挙

平成26年3月に、2回目の理事選挙を行った。

② 日本医学会との連携

公益社団法人日本医師会の内部組織としての日本医学会から一般社団法人日本医学会連合への移行に貢献した。